

水稻・小麦栽培情報 5月号

令和3年4月19日

J A 柳 川

南筑後普及指導センター

【小麦】

1 生育概況

3年産小麦の生育は、1月中旬以降の高温の影響で平年より早く推移しています。柳川管内における出穂期の中心は昨年より遅いが平年より10日程度早く、成熟期についても今後の気温が平年並で経過した場合、昨年よりも遅いが平年より早くなることが予想されます。

2 収穫適期

11月下旬播種の小麦の出穂期及び予想収穫適期は、下表のとおりです。

出芽や生育が遅かったほ場は、出穂期や成熟期も遅くなるため、ほ場毎に生育を確認し、適期収穫に努めます。

品種名	出穂期	予想収穫期	備考
シロガネコムギ	3月30日中心	5月25日頃から	播種時期、出穂期によって予想収穫期は異なります
ミナミノカオリ	3月30日中心	5月29日頃から	

※収穫期は出穂後の平均気温積算による方法で予測

※今後の気象条件により、収穫適期は前後することがあります。

※収穫の際は、必ずJAが定めた荷受計画に従ってください。

※高水分で麦を収穫するとフレコン内で赤かび病が蔓延することがあるため、荷受前日の収穫は避け、収穫後はただちに乾燥させます

3 雑草について

カラスノエンドウ（マメ科雑草）の種子は小麦の収穫時に混入すると、調製で除去できないため、検査等級を低下させる原因となります。収穫作業前に、ほ場内のカラスノエンドウを除去するとともに、次年度以降の発生を抑えるため、畦畔部も除草します。

4 収穫後の麦わらについて

麦わらは焼却せず、土づくりのためにすき込みましょう

わら鋤き込みの効果

- ・すき込みにより、腐植の低下を緩和し、地力を維持できます
- ・土壌が軟らかくなるため、根の伸長を促し、耕うん作業が容易になります
- ・土壌の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できます

<水稲作前の麦わらすき込みのポイント>

- ① 深めに耕起する
 - ・麦わらが短いと浮き上がりやすいため、やや長め（20cm程度）に切断します
 - ・麦わらが田面に残らないように、やや深めに耕して土中へ埋没させます
- ② 代かきの水は最小限度で（潟かき）
 - ・尾輪の跡に水がたまる程度のごく浅水で、荒代かきを行います
 - ・麦わらの浮き上がり防止のため、代かきのときはロータリの回転は遅くします
- ③ 基肥を増肥
 - ・麦わらの分解の際に微生物が土壌中の窒素を使用するため、麦わらをすき込んだほ場はすき込み開始から3年間、**窒素成分2kg(硫安の場合は10kg)/10aを増肥**して、生育を確保します（なおブロックローテーションでの大豆作の年も3年間に含めます）
 - ・窒素を増肥することで、麦わらの分解を促進することができます

※「実りつくし」については、倒伏防止のため増肥は不要です
- ④ 田植え後の水管理の徹底（間断かん水でガス抜き）
 - ・麦わらの分解で発生するガスにより、稲の活着が悪くなることもあるため、水管理を徹底します
 - ・田植え後、除草剤散布までの間は浅水とします
 - ・除草剤散布後1週間は湛水し、その後は間断かん水してガス抜きを促進します

<大豆作前の麦わらすき込みのポイント>

- ① 麦わらの細断
 - ・播種の際に回転ロールに支障がないように麦わらを細断し、ほ場に均一に散布します（特に枕部分）
- ② 土壌と混和する
 - ・土壌中に十分に混和します
- ③ 播種
 - ・耕起時の碎土、播種後の鎮圧をしっかり行い、出芽率を高めます

【水稻】

1 播種準備

(1) 種子消毒

JA から配布された種子は、農薬が粉衣されています。(種子に着色)
消毒済種子は、浸種することで効果を発揮します。種子重量の2倍の水に消毒済種子をゆっくりと浸します。

※種子消毒後は、水洗いをせずに浸種します

(2) 浸種

浸種は、粃から芽が少し出る時期まで行います。(鳩胸程度)

浸種期間の目安は、種子消毒の期間を含め4～5日程度です。芽が伸びすぎると、播種時に芽を傷めるため注意が必要です。

2 播種

育苗日数が20日の場合、播種量は乾粃140～160g/箱程度です。育苗日数や移植時期から逆算して播種期や播種量を調整します。

育苗日数が長くなる場合、播種量を減らして苗が老化しないようにします。

3 育苗

播種後は、カビや病害の発生を防ぐため平床出芽を行います。

寒冷紗を2重に被せ、5～7日程度(苗長3～4cm)で1重にし、その後2～3日程度(苗長4～5cm)で完全にはがします。

灌水について、2重被覆期は1日1回を目安に、その後は苗の生育に応じて回数を増やします。過度の灌水は生育を阻害するため注意します。

なお、「元気つくし」、「実りつくし」は「ヒノヒカリ」と比較して、伸びやすい特性があるため寒冷紗は早めに除去します。

4 土づくり

代かき前に、ミネラルG(ケイ酸と鉄分の補給)やとれ太郎(ケイ酸の補給)、ケイ酸加里(ケイ酸と加里の補給)、アヅミン(腐植酸の補給)、土力の素(腐植酸と加里の補給)等の土壌改良材を投入して、健全な稲づくりの下準備を行います。

春の農作業安全確認運動(3月～5月)

「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」